馬産地ライター村本浩平の

2019 スタリオンシリーズ競走種牡馬名鑑

Vol.2 | 6.27[木]▶8.1[木]開催分

6.27[木] リオンディーズ賞
【栄冠賞[H2]】

リオンディーズは現在6歳。2013年1月29日に安平町のノーザンファームで誕生しています。父はキングカメハメハで、母はシーザリオ(母の父はスペシャルウィーク)。生涯成績は5戦2勝。2歳時の朝日杯FSでは、最後方から前を行く15頭を交わし去る衝撃のパフォーマンスで優勝を果たします。3歳の春はクラシック戦線で思うような結果が残せず、その年の秋には調教中に故障を発症して引退。現在は日高町のブリーダーズ・スタリオン・ステーションで繋養されています。リーディングサイアーと日米オークス馬という夢の配合、何よりも朝日杯FSでの走りは生産者の心を捕らえたようで、繋養初年度となる2017年は191頭、2018年にも161頭もの繁殖牝馬を集める人気種牡馬です。

7.4[木] ミッキーアイル賞
【グランシャリオ門別スプリント[H3]】

ミッキーアイルは現在8歳。2011年3月12日に安平町のノーザンファームで誕生しています。父はディープインパクトで、母はスターアイル(母の父Rock of Gibraltar)。生涯成績は20戦8勝。初勝利を挙げた2歳未勝利戦で2歳芝1600Mの日本レコードを樹立すると、そこから破竹の5連勝でNHKマイルCを勝利し、GⅠ制覇。古馬となってからは逃げ一辺倒では無いレーススタイルにも取り組むも、やはり持ち前のスピードを活かした逃げで5歳時の阪急杯を優勝。高松宮記念、スプリンターズSでいずれも2着となった後、マイルCSでも積極果敢なレースを見せてGⅠ2勝目をあげます。現在は安平町の社台スタリオンステーションで繋養されています。2017年と2018年はシャトル種牡馬として、オーストラリアでも供用されました。

7.17[水] アドマイヤムーン賞
【星雲賞[H3]】

アドマイヤムーンは現在16歳。2003年2月23日に安平町のノーザンファームで誕生しています。父はエンドスウィープで、母はマイケイティーズ(母の父はサンデーサイレンス)。生涯成績は17戦10勝。4歳時にドバイデューティーフリーでG1初制覇を果たすと、宝塚記念とジャパンCにも優勝。現在は日高町のダーレー・ジャパン・スタリオン・コンプレックスで繋養されています。産駒は父譲りのスピード能力と前向きな性格が合致したのか、総じて高いスプリント適性を示しており、主な産駒にはセイウンコウセイ(高松宮記念)、ファインニードル(高松宮記念、スプリンターズS)などがいます。ファインニードルは今シーズンから父と同じ場所でのスタッドインとなりました。

7.18[木] シニスターミニスター賞
【ノースクイーンカップ[H2]】

シニスターミニスターは現在16歳。2003年3月29日産まれのアメリカ産馬となります。父はOld Triesteで、母はSweet Minister(母の父はThe Prime Minister)。生涯成績は13戦2勝ながらも、デビュー2戦目には8馬身差の勝利。ブルーグラスSでは12馬身3/4身差を付ける圧勝でG1制覇を果たします。現在は新ひだか町のアロースタッドで繋養。産駒はダートを中心に活躍を続け、インカンテーションはレパードSを勝利して父に重賞初タイトルを授けるなど、重賞で6勝をあげる活躍。各世代からグレードレースの勝ち馬を送り出すように、安定した産駒成績を残しており、今年の北海道スプリントCでは、ヤマニンアンプリメが牝馬としては初めてとなる、同レースでの優勝を果たしました。

7.25[木] ヘニーヒューズ賞
【ブリーダーズゴールドジュニアカップ[H1]】

ヘニーヒューズは現在16歳。2003年4月5日生まれのアメリカ産馬となります。父はHennessyで、母はMeadow Flyer(母の父はMeadowlake)。生涯成績はGⅠ3勝を含む10戦6勝。うち2着は3回で、その全てがGⅠという競走成績を残したヘニーヒューズですが、種牡馬としての評価を世界的に高めたのが、名牝Beholderの存在と言えるでしょう。日本でも外国産馬や持ち込み馬から芝、ダート問わずにグレードレースの勝ち馬が誕生していく中で、アジアエクスプレスが朝日杯FSを制して、日本でのGⅠ初制覇を果たします。現在は新冠町の優駿スタリオンステーションで繋養。ドンフォルティスが2017年の北海道2歳優駿を優勝しただけでなく、今年のニュージーランドTではワイドファラオが勝利しています。

8.1[木] サトノクラウン賞
【王冠賞[H2]】 新種牡馬

サトノクラウンは現在7歳。2012年3月10日に安平町のノーザンファームで誕生しています。父はMarjuで、母はジョコンダⅡ(母の父はRossini)。生涯成績は20戦7勝ですが、特筆すべきは2歳時から5歳時まで、4年連続で重賞を制した息の長い活躍と言えるでしょう。7度目のG1挑戦となる2016年の香港ヴァーズでは、その年の凱旋門賞で2着となったHighland Reelを交わしてG1初制覇を果たすと、次の年の宝塚記念も優勝。重馬場で行われた天皇賞・秋でも、その年の年度代表馬に輝いたキタサンブラックとマッチレースを繰り広げて2着に入着します。現在は安平町の社台スタリオンステーションで繋養。現在の日本生産界における主流血統とアウトクロスを作りやすい血統背景もあって、生産地からの人気を集めています。

今シーズンは特別競走12レースも「スタリオンシリーズ競走」として開催!

- 6/26[水]メイショウボーラー賞
- 7/11[木]ダノンバラード賞
- 7/23[火]ヴァンセンヌ賞

「スタリオンシリーズ競走」は、一般社団法人JBC協会(ジャパンブリーダーズカップ協会)が産地の支援を得て、優勝馬の馬主や生産者に種牡馬の翌年度種付権利を副賞として贈呈する競走です。※生産牧場が海外の場合は付与対象外となります。